

文化・教養	(一社)ビューティフルエージング協会寄付講座 人生100年時代を考える 9月 「 認知症になっても困らないために (第2回) 」 ～ 共生社会の制度やサポートを上手に利用する ～	A205 XX00
-------	--	--------------

講座趣旨
<p>わが国は世界に例をみない急激な少子高齢化がすすんでおり、社会の在り方を抜本的に見直す時期にきています。人生100年時代の社会で、充実し安心して生活するためには、若いうちから学び、働き、人生設計を考えることが大切です。そのためには、国等に依存する(公助)だけでなく、地域での助け合い(共助)、自助努力(自助)が重要になっています。ビューティフルな人生を送るためには、自らを育てる“育自”が必要なのです。本講座では、高齢者から若い世代の方々へ「学び方」「働き方」「生き方」を考えていただく機会を提供していきます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策の一環として、受講者登録と事前申込みの両方をお願いします。</p>

講座開催概要	
日 程	令和3年9月15日 水曜日
時 間	午後3時～4時30分
定 員	20人(先着制)
回 数	1回
受講料	無料
教 材	レジュメ資料 ほか
難易度	★★★
会 場	三鷹ネットワーク大学
申 込	事前申し込み(大学へ直接)

9月15日	「 認知症になっても困らないために (第2回) 」 ～ 共生社会の制度やサポートを上手に利用する ～
	<p>2025年には65歳以上の5人に一人が認知症になると予想されていますが、認知症になると本人は収入減や支出増、法的行為ができない、第三者への賠償責任リスクが高くなるなど様々な経済的な問題に直面します。介護者も長期に亘る介護に一人で頑張るだけでは精神的にも肉体的にも疲れ果ててしまいます。それらを解決するために、国や自治体、地域、企業などは認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができる良い環境・社会の実現を目指して努力しています。具体的には認知症者本人や介護者が困らないための「成年後見制度」や「家族信託」、「地域の権利擁護支援施策」、「医療費、介護費の軽減制度」、「認知症保険」、「自治体の個人賠償責任保険」、介護者への支援体制など様々な制度やサポートがあります。実際に実施されている自治体のサポート体制も含め、今後の動向も紹介します。これらを上手に活用して少しでも楽になりませんか。</p>

講師紹介 (敬称略)
<p>埜 猛 (はなわたけし) BAA専務理事、認知症介助士</p> <p>企業内で高ストレスの職場環境改善や個人のストレスを軽減するためのEAP(従業員支援プログラム)制度を立ち上げると共に、実際に従業員からどんな悩みの相談でも受けるコンサルタントとして、約1,000名の幅広い悩みに対応した。その経験を通じて困りごとは一人ひとり違い、その対応も千差万別であることを痛感し、ライフデザイン・アドバイザー、メンタルヘルスマネジメント検定資格I種、認知症介助士などの資格を取得する。現在は認知症サポーターとして、認知症で困らないためのセミナーの講師をしながら、参加者とともに困らないためにどうするか日々模索している。</p>